

平成24年度評議員会



挨拶される井戸支部長

6月15日(金)、平成24年度評議員会が開催されました。
平成23年度の事業報告のあと、「平成23年度兵庫県支部一般会計及び館内施設特別会計歳入歳出決算」について審議、それぞれ承認されました。
井戸支部長は挨拶で「昨年の東日本大震災では、兵庫県支部も大活躍してくれた。医療救護だけでなく、被災地支援の救援物資搬送、こころのケア等を展開し、救援活動の専門機関としての役割を果たすことができた。阪神・淡路大震災から考えても、復興・復旧にはまだまだ時間がかかるので、支援を続けていかなければならない。」と、日赤としての役割について強い思いを述べられました。

青少年赤十字提供プログラム

今年度も5月以後、この提供プログラムをご利用いただく学校が増えてきました。
特に6月に入ってから、学校行事でプールが始まることもあり、先生方の一次救命処置の技術向上のため、また、保護者と子どもたちが一緒に救命の話を聞き、心肺蘇生やAEDの使い方を覚えるといった学校が増えてきました。
大切ないのちの守り方を学んだり、人のために自分にできることを考えてみるために、赤十字の提供プログラムをご利用ください。



4・5・6月に参加していただいた学校

- | | | | |
|---|---|--|---|
| ● 国際理解・平和
兵庫県立龍野北高校 | 神戸市立太山寺小学校
神戸市立春日野小学校 | 三木市立志染小学校
篠山市立八上小学校
南あわじ市立北阿万小学校 | 神戸市立星和台中学校
神戸市立有野中学校
神戸市立大沢中学校
神戸市立港島中学校
神戸市立桃山台中学校
神戸市立渚中学校
三木市立三木東中学校 |
| ● 健康・安全
(AEDを使った心肺蘇生等)
神戸市立渦が森小学校
神戸市立千鳥が丘小学校
神戸市立御影小学校
神戸市立岩岡小学校 | 神戸市立西須磨小学校
神戸市立高倉台小学校
西宮市立東山台小学校
宝塚市立逆瀬台小学校
宝塚市立宝塚第一小学校 | 淡路市立石屋小学校
淡路市立北淡小学校
淡路市立富島小学校
淡路市立多賀小学校 | |

講習のご案内 ~健康で安全な生活を送る知識と技術を~

じめじめとした梅雨…。蒸し暑さと湿度の高さで体調を崩される方も多いのではないのでしょうか。快適な生活環境作りは、健康な生活を送る上で欠かせないことです。

自分の健康をきちんと守り、家族の健康と安全に気を配り、安心な毎日を送るために、そして、もしもの時にはケガ人や病人を正しく救助するための知識と技術を身につけてみませんか。

日本赤十字社は、皆さまが健康で安全な生活を送るためのお手伝いができるよう、救急法等の講習の普及活動に努めてまいります。

www.hyogo.jrc.or.jp

赤十字 兵庫

検索

講習会場は日本赤十字社兵庫県支部です。詳細及びその他の講習についてはホームページで。

内容	開催日	
救急法基礎講習	8月23日(木) 9月 8日(土)	
救急法救急員養成講習(2日間)	9月22日(土) 23日(日)	
救急法基礎・救急員養成講習 (セット講習 3日間)	8月27日(月) 28日(火) 29日(水) 9月15日(土) 16日(日) 17日(月・祝)	
幼児安全法支援員養成講習(2日間)	8月18日(土) 19日(日) 26日(日)	
健康生活支援講習(3日間)	9月23日(日) 29日(土) 30日(日)	
科目別講習		
健康生活 支援講習	災害時高齢者生活支援講習 (災害が起こった時、支援できること) 癒しの看護・やさしいスキンシップ (リラクゼーション)	8月30日(木) 10:00~12:00 8月30日(木) 13:00~15:00
救急法	骨折の手当て搬送法	8月30日(木) 15:30~17:30

ひょうごの赤十字

2012 July 7月

- 県民の皆さんの安心・安全のために
- 合同災害救護訓練で協力体制の充実・強化!
- 全日空から「しあわせの花 すずらん」のプレゼント
- ウガンダ母子保健事業
- 県内各施設で救護員辞令交付
- 平成24年度評議員会
- 青少年赤十字提供プログラム
- 講習のご案内



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

県民の皆さんの安心・安全のために

～「街角の赤十字」として県内の交番等に、救急医薬品・AEDを設置～



「街角の赤十字」はこのマークが目印



警察署内に設置されたAED

5月21日(月)、兵庫県警察本部で、救急医薬品とAED(自動体外式除細動器)の委託式を行い、兵庫県支部事務局長から兵庫県警察本部地域部長へ、目録が手渡されました。

皆さまからお寄せいただいた活動資金をもとに整備された救急医薬品は、県内の交番に設置している救急箱への補充として渡されるものです。救急箱は、当支部が兵庫県警察との協働事業として、昭和33年から「街角の赤十字」として設置を続けているもので、毎年、県民の皆さんの日々の安心・安全に効果を上げています。

昨年の活用事例としては、ひったくり事件被害者への傷の消毒、除雪作業中の男性が捻挫したため湿布薬を、交番前で転倒した幼稚園児に絆創膏を、その他転倒や負傷、事故など、405件の報告がありました。小さな子どもさんの手当てに対しては、後日、保護者の方がお礼に来られるなど、それぞれの地域で、赤十字の活動が役立っています。

また、昨年からは心拍停止例の救命率向上のため、兵庫県警察の協力により、県内の警察施設へ、7ヵ年計画で合計140台のAEDの設置を始めました。昨年の警察本部等へ16台の設置に続き、今年度は、但馬、丹波、淡路地域等へ20台。

これからも、皆さんの安心・安全な生活を守るための一助として、配備を続けてまいります。

※AEDは2004年7月から、一般市民による使用が認められています。赤十字では、心肺蘇生やAEDの使い方を学ぶ講習会を行っておりますので、皆さんも受講してみてください。

合同災害救護訓練で協力体制の充実・強化!

～大規模災害発生!そのとき赤十字は…～

5月26日(土)、奈良県浄化センター(大和郡山市)で、第18回日本赤十字社第4ブロック合同防災訓練を開催しました。気温28度にも及ぶ夏日となった現地には、日本赤十字社第4ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)各支部、赤十字病院、血液センター、赤十字奉仕団、防災ボランティア等、18機関約600人が集まり、当支部からも看護学生を含む100人が参集。

午前9時、「奈良県中央構造線断層帯を震源とするM8.0、震度6強の直下型地震が発生。家屋の倒壊、ライフライン施設等に甚大な被害があり、多数の死傷者が出た模様」という設定で訓練開始。奈良県支部は直ちに被害状況等の情報収集をし、近畿ブロック各府県支部救護班等と合同で災害救護活動にあたります。

兵庫、大阪、和歌山の支部では、所有するdERU(緊急仮設診療所)を設営。トラウマメイクをした傷病者役の看護学生たちが、トリアージ(傷病者判定基準)エリアで、「痛い、痛い、早く助けて」と、悲鳴を上げ救護を待ちます。強い不安をかかえた妊娠36週目の妊婦、腕の切断や顔面の損傷等、痛々しいメイクに迫真の演技、あまりの暑さに訓練中に本当に倒れてしまう学生も出る程。

救護所内は、運び込まれてくる傷病者で溢れ返り、医師、看護師は手当てに追われていました。

一方、避難所支援訓練では、こころのケアセンターやボランティアセンターを立ち上げ、避難者のケアに当たります。ボランティアやこころのケア要員に話を聞いてもらったり、一緒に手遊びの歌をうたったり、被災者役の地域奉仕団らには笑顔が溢れていました。

避難所では毛布等すぐに必要な救援物資の他に、プライベートを守るための段ボールの衝立も運び込まれ、不自由な避難所生活からストレスを軽減するためのアイデアが活かされていました。



次々と傷病者の手当てをする救護班



こころのケアで和やかに

全日空から「しあわせの花 すずらん」のプレゼント

6月8日(金)、神戸赤十字病院で、ANA(全日本空輸株式会社)から患者さんへ、毎年恒例となったすずらんの贈呈がありました。

同病院を訪れた客室乗務員の十河愛さんは、「すずらんの花言葉は『幸せの再来』。一日も早く元気になり、皆さまの幸せが、このあと末長く続きますよう、お祈りしています。」と挨拶をした後、ANAの職員がひとつひとつ手作りの『すずらんの押し花のしおり』を、ロビーや病室で心待ちにしていた患者さんに手渡しました。

しおりを受け取った患者さんは、「わあ、きれいやねえ」と満面の笑みで喜ばれたり、「ありがとう、ありがとう」と何度も言いながら涙を流されたり、とても感動的なひと時となりました。



「きれいやねえ」患者さんも大喜び



感激のあまり涙ぐまれる姿も

ウガンダ母子保健事業

～妊産婦が安全に出産できる地域づくりを目指して～



ウガンダへ派遣される二星看護師

神戸赤十字病院の二星智恵子看護師が、6月23日(土)から約8ヶ月間、ウガンダ赤十字社母子保健事業で、ウガンダ共和国北部アチョリ地域へ派遣されました。

二星看護師は、平成22年に約6ヶ月間、フィリピン共和国キノ州へ保健医療支援事業に従事する経歴をもっています。

今回は、ウガンダ赤十字社が実施するウガンダ北部アチョリ地域の妊産婦を対象とした母子保健事業への助言、調査への参加、モニタリングなど、支援活動やウガンダ赤十字社との連絡調整等の事業を行います。

ウガンダ北部では、約7割の妊婦が伝統産婆や家族の介助のもと自宅で出産するため、分娩中に異常が発生した場合に対応できず、妊婦が亡くなるケースが多くみられます。こうした状況の改善のため、妊産婦をケアするボランティアの育成、住民への母性保護の知識の普及活動、また、出産時に必要な物品(ビニールシートやカミソリなど)を詰めたバック「ママバック」を妊婦に配付するなど、保健センターでの妊婦検診と出産を促すことに力を尽くしています。

前回とは目的も内容も違った事業で、新たな課題に取り組むこととなりますが、ウガンダ赤十字社の大きな力となってもらいたいと思います。

県内各施設で救護員辞令交付

5月10日(木)を皮切りに、県内各施設で救護員辞令交付式が行われました。

対象者は病院、血液センターの、医師、看護師、薬剤師、事務職員等257人。それぞれの職員が、救護班要員、日赤DMAT要員、ERU要員、こころのケア要員、血液供給要員等に任命されました。

会場となった各施設では、藤原事務局長から職員一人一人に辞令が手渡されました。今回辞令を受けた中には、昨年の東日本大震災の被災地で活動した職員も多くなります。

交付式の後、赤十字の救護活動について講義を受け、今後大規模災害が起きた際には迅速に対応できるよう、赤十字や他機関の行う災害救護訓練や研修等に積極的に参加し、いつでも行動できる心構えと態勢を整えます。



藤原事務局長から辞令を受ける職員